

9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

● POWER LED は点灯していますか?

POWER LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がなく正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

● 機器を停止後、すぐに起動していませんか?

本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間をあけてください。

● LINK/ACT LED は点灯していますか?

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

- 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。接続先機器が障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

- 正しいUTPケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

- ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。

2つのネットワーク機器の直接リンクを構成するUTPケーブルは最長100mと規定されています(ただし、クラスⅡのリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は5m以内としてください)。

- ケーブルを他のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性があります。

- UTPケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくい(結線が良いが特性が悪い場合など)、他のケーブルに交換して試してみてください。

- カスケード切替スイッチを確認してください。

本製品のカスケードポート(ポート16)を使用して、リピーターやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のカスケード切替スイッチを「=HUB」(MDI)に設定してください。

本製品のカスケードポート(ポート16)同士をカスケード接続する場合は、一方を「=HUB」(MDI)に、もう一方を「X PC」(MDI-X)に設定します。

- 本製品と接続先機器の通信モードを確認してください。

本製品の10BASE-T/100BASE-TXポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。本製品がオートネゴシエーションモードに設定されている場合で、接続先機器がIEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、接続先機器の通信モードをHalf Duplexに設定してください。

10 製品仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3x Flow Control
適合規格	
安全規格	UL1950, CSA-C22.2 No.950
EMI規格	VCCIクラスB
電源部	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC 90-255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	0.3A
平均消費電力	11W (最大14W)
平均発熱量	40kJ/h (最大50kJ/h)
環境条件	
動作時温度	0 ~ 40℃
動作時湿度	80%以下 (結露なきこと)
保管時温度	-20 ~ 60℃
保管時湿度	95%以下 (結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	305(W) x 182(D) x 38(H) mm
質量	
	1.44 kg

スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	
	4K (最大)
メモリー容量	
パケットバッファ容量	512KByte

11 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

 **0120-860332**
携帯電話／PHSからは：045-476-6218
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00
13:00～17:00

● 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責をいっさい負わないものとします。

12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/info/>

0120-860772

携帯電話／PHSからは：045-476-6203
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00
13:00～18:00

13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

● 一般事項

すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただくことができます。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

● 製品について

製品名(FS716TX V2)、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。



図6 シリアル番号シール(例)

● 設定やLEDの点灯状態について

- スイッチ類の設定状態をお知らせください。
- LEDの点灯状態をお知らせください。

● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。

● ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

14 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社(弊社)の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2000-2008 アライドテレシスホールディングス株式会社

15 商標について

CentreCOMは、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

0120-860442

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～17:30

19 マニュアルバージョン

2000年10月 Rev.A 初版

2000年12月 Rev.B 改版

2008年2月 Rev.C 改版



ファーストイーサネット・スイッチ CentreCOM® FS716TX V2 ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM FS716TX V2をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TXオートネゴシエーションポートを16ポート装備したファーストイーサネット・スイッチです。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

1 特長

- 最大4KのMACアドレスを登録可能
- オートネゴシエーション機能をサポート
- プッシュスイッチにより、ポートごとにAUTO/100M FULL/100M HALF/10M FULL/10M HALFの手動設定が可能
- ディップスイッチにより、フローコントロール(Half Duplex時=バックプレッシャー機能、Full Duplex時=IEEE 802.3x PAUSE)のON/OFFが設定可能
- プッシュスイッチにより切替可能なカスケードポートを装備
- 信頼性の高いストア&フォワード方式のスイッチング方式
- AC電源を内蔵
- ポートごとの通信状況が一目でわかるLEDを装備

オプション(別売)

- 壁設置用ブラケットAT-BRKT-J23により壁面への設置が可能

- マグネットKit Mにより、スチール製の壁面への設置が可能

- ラックマウントキットAT-RKMT-J04により、19インチラックマウントへの設置が可能

- ユニットクランパーBグループにより、積み上げ設置が可能

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

<http://www.allied-tesis.co.jp/>

2 アイコンの説明

アイコン	意味	説明
	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。



安全のために

必ずお守りください



分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



異物を入れない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



通風口はふさがらない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



湿気やほこりの多いところ

油煙や湯気のあたる場所には置かない
火災や感電の原因となります。



表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。本製品はAC100-240Vで動作します。なお、本製品に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。



正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。ケーブル類やプラグの取扱上の注意
・加工しない、傷つけない。
・重いものを載せない。
・熱器具に近づけない、加熱しない。
・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

正しく設置する 縦置き注意

取扱説明書に従って、正しく設置してください。不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。



ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所(結露するような場所)
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所(仕様に定められた環境条件下でご使用ください)
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所(静電気障害の原因になります)
- ・腐食性ガスの発生する場所

3 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認して、次のものが入っているかを確認してください。

- CentreCOM FS716TX V2 本体(1台)
- 電源ケーブル* (1.8m、1本)
- 製品保証書(1枚)
- 製品仕様書(英文)(1枚)
- CentreCOM FS716TX V2 設置時のご注意(1枚)
- シリアル番号シール(2枚)
- ユーザーマニュアル(本書)

* 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC100Vでご使用の場合は、同梱の電源ケーブルをご使用ください。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

* 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。

再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはいけない

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えたりしないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤(中性)をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉(化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください)



4 各部の名称と機能

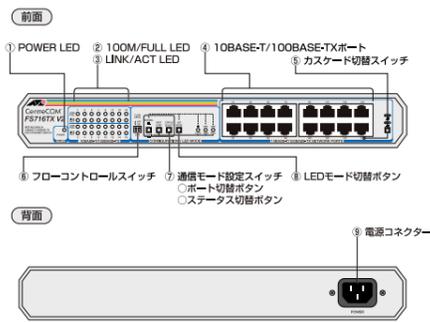


図 1 外観図

① POWER LED (緑)

電源が正しく供給されているときに点灯します。

② 100M/FULL LED (緑)

LEDモード切替ボタンで「SPEED」に設定している場合はポートの通信速度 (10M/100M)、「DUPLEX」に設定している場合はポートの通信モード (HALF/FULL) を表示します。

100M

ポートが「AUTO」に設定されている場合は、100Mbpsで動作しているときに点灯します。

ポートを「100M」固定に設定した場合は、LINKのON/OFFにかかわらず点灯します。

FULL

ポートが「AUTO」に設定されている場合は、Full Duplexで動作しているときに点灯します。

ポートを「FULL」固定に設定した場合は、LINKのON/OFFにかかわらず点灯します。

注意 通信モード設定スイッチが「CONFIG」(スイッチが押し込まれた状態)のときは、ポート切替スイッチによって選択されているポートが点滅します。

③ LINK/ACT LED (緑)

ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。また、ポートがパケットを送受信しているときに点滅します。

④ 10BASE-T/100BASE-TXポート

10BASE-T/100BASE-TXのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。

ポート16は、カスケード切替スイッチによって、カスケード接続用ポートとして使用するが、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定することができます。

⑤ カスケード切替スイッチ

カスケードポート (ポート16) を、カスケード接続用ポートとして使用するが、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。

出荷時設定は「X PC」(スイッチが飛び出している状態)です。

= HUB (スイッチが押し込まれた状態) カスケード接続をするときのカスケードポート (MDI)として使用します。

X PC (スイッチが飛び出している状態) 通常の10BASE-T/100BASE-TXポート (MDI-X)として使用します。

⑥ フローコントロールスイッチ

フローコントロールON/OFFを設定するためのスイッチです。

フローコントロールとは、スイッチ内部において受信側の通信速度が送信側の通信速度よりも遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、バッファオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐための機能です。

Half Duplex時のフローコントロール (バックプ

レッシャー) ON/OFFを設定する「H」(左側)と、Full Duplex時のフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)ON/OFFを設定する「F」(右側)の2つのスイッチがあります。

出荷時設定はどちらも「OFF」(上側)です。

H (左側)

Half Duplex時のフローコントロール (バックプレッシャー機能) ON/OFFを設定します。

「ON」(下側)にすると、フローコントロールがONになります。

常にバッファメモリーを監視し、空きが減少してくると、送信側のポートに対してジャム信号を送出します。

「OFF」(上側)にすると、フローコントロールがOFFになります。

F (右側)

Full Duplex時のフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)ON/OFFを設定します。

「ON」(下側)にすると、フローコントロールがONになります。

常にバッファメモリーを監視し、空きが減少してくると、送信側のポートに対してPauseパケットを送出します。

「OFF」(上側)にすると、フローコントロールがOFFになります。

注意 Full Duplex時のフローコントロールは、本製品の通信モードがAUTO (オートネゴシエーション) で、かつ接続先の機器もフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE)をサポートしている場合に機能します。

⑦ 通信モード設定スイッチ

ポートの通信モード (AUTO/100M FULL/100M HALF/10M FULL/10M HALF) を設定するためのスイッチです。

出荷時設定は「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態)です。

(通信モードの出荷時設定は全ポート「AUTO」です。)

NORMAL (スイッチが飛び出している状態)

ポートの通信モードが設定されていて、その通信モードで通信ができる状態です。

この状態のときにLEDモード切替ボタンを使用して、100M/FULL LEDの表示内容を切り替えることができます。

CONFIG (スイッチが押し込まれた状態) ポートの通信モードを設定するための状態です。

この状態のときにポート切替ボタンとステータス切替ボタンを使用して、ポートごとに通信モードを設定することができます。

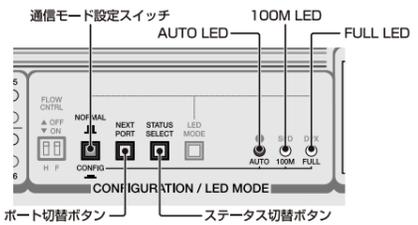


図 2 ポート切替ボタン/ステータス切替ボタン (拡大図)

○ ポート切替ボタン

ポートを選択するためのボタンです。

通信モード設定スイッチを「CONFIG」に設定すると、ポート1が選択されます。

ボタンを押すごとに、選択されるポートが次のポートへと移動します。

最終ポート (ポート16) まで移動すると、再びポート1へ戻ります。

選択されているポートは、100M/FULL LEDの点滅によって表示されます。

○ ステータス切替ボタン

通信モードのステータスを選択するためのボタンです。出荷時設定は全ポート「AUTO」(オートネゴシエーション) が選択されていて、ボタンを押すごとにステータスが切り替わります。

選択されているステータスは、AUTO/100M/FULL LED (緑) の点灯によって表示されます。

ステータスの設定は、ポート切替ボタンで次のポートへ移動することによって有効となります。

ステータス切替ボタン	ステータス	LED表示
1	AUTO	AUTO 100M FULL
2	100M FULL	AUTO 100M FULL
3	100M HALF	AUTO 100M FULL
4	10M FULL	AUTO 100M FULL
	10M HALF	AUTO 100M FULL

表 1 ステータスとLED表示の切り替わり

注意 通信モード設定スイッチが「NORMAL」のときに、ポート切替ボタンとステータス切替ボタンを同時に2秒以上押すと、通信モードの設定が出荷時設定 (全ポート「AUTO」)に戻ります。

通信モード設定スイッチ (ポート切替スイッチ/ステータス切替スイッチ) を使用して手動で通信モードを設定すると、電源を入れなおした場合も、最終設定で起動します。

⑧ LEDモード切替ボタン

100M/FULL LEDで通信速度 (10M/100M) を表示させるか、通信モード (HALF/FULL) を表示させるかを設定するためのスイッチです。

ボタンを押すごとにLEDモードが切り替わり、どちらを選択しているかは、SPEED/DUPLEX LEDの点灯によって表示されます。

出荷時設定は「SPEED」です。

注意 LEDモードの切り替えは、通信モード設定スイッチが「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態)のときに行ってください。

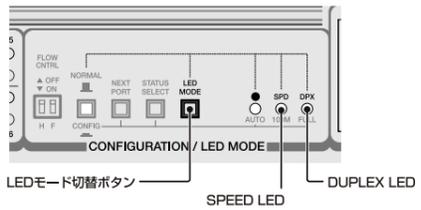


図 3 LEDモード切替ボタン (拡大図)

SPEED LED (緑)

このLEDが点灯している場合は、100M/FULL LEDが通信速度 (10M/100M) を表示しています。

DUPLEX LED (緑)

このLEDが点灯している場合は、100M/FULL LEDが通信モード (HALF/FULL) を表示しています。

⑨ 電源コネクタ

電源ケーブルを接続するためのコネクタです。同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご利用の場合は、設置業者にご相談ください。

5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

設置準備

● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

○ 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。

○ テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

○ 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

○ 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。

○ 本体の上にものを置かないでください。

○ 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

○ 本製品は屋外ではご使用になれません。

○ コネクタの端子にはさわらないでください (静電気を帯びた手 (体) でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります)。

警告 弊社指定以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

設置

本製品は、デスクトップなど平らなところ、19インチラック、または壁面に取り付けて使用できます。

● 平らなところに設置する

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らな所に設置して使用できます。

オプション (別売) を利用した設置

本製品は、次のオプション (別売) を使用することによりEIA規格の19インチラックまたは壁面などへの設置ができます。取り付けに関しては、オプション付属の取扱説明書をご参照ください。

● ラックマウントキット (AT-RKMT-J04)

EIA規格の19インチラックへ設置できます。

● 壁設置ブラケット (AT-BRKT-J23)

壁面へ設置できます。

● マグネットキット M

スチール製壁面へ設置できます。

● ユニットクランパー B グループ

デスク上などの平らな所に積み上げ設置できます。

また、本製品を設置する際は、必ず、別紙「CentreCOM FS716TX V2 設置時のご注意」をご参照ください。

6 接続

ネットワーク機器の接続

● UTPケーブルの接続

UTPケーブルを使用して本製品とPCなどの端末を接続します。本体のLANポート (RJ-45) にUTPケーブルの一端を接続し、もう一端をネットワークポートに接続します。

ヒント UTPケーブルのコネクタ部を持ち、カチッと音がするまで差し込んでください。

● UTPケーブルの 카테고리

10BASE-T 接続の場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

● UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続する長さは100m以内にしてください。

電源の接続 (本製品の起動)

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。

警告 本製品をAC100Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

注意 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

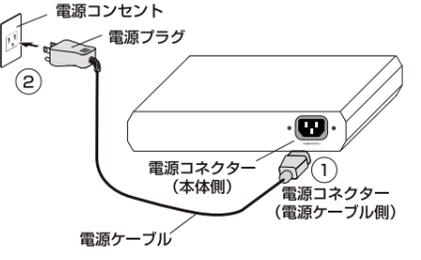


図 4 電源ケーブルの接続

1. 本体側の電源コネクタを接続する。

図4の①をご覧ください。

2. 電源プラグを電源コンセントに接続する

図4の②をご覧ください。

このとき、本体前面のPOWER LED (緑) が点灯することを確認してください。UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LED (緑) が点灯します。

本製品の停止

本製品を停止するには電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。

警告 電源を抜くときには、本体側の接続を先に抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

ヒント 本製品を停止してから再度起動する場合は、しばらく間を空けてください。

7 構成

本製品はスタンドアロンでご使用いただけるほか、下図のとおりカスケード接続でもご使用いただけます。

カスケード接続

カスケードポート (ポート16) を使用すると、ケーブルをクロスタイプに変更せずに、簡単にカスケード接続を行うことができます。

ヒント スwitch同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

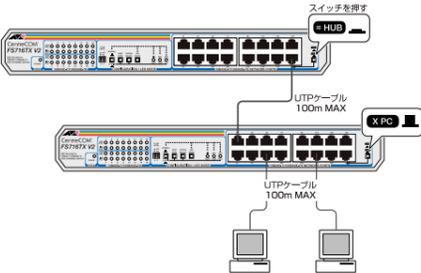


図 5 カスケード接続

1. カスケードポート (ポート16) にUTPケーブル (ストレートタイプ) を接続する。

2. カスケード切替スイッチを「= HUB」(MDI) に設定する。

3. UTPケーブル (ストレートタイプ) のもう一方の端を、接続先機器の通常の10BASE-T/100BASE-TXポートに接続する。

接続先が同一製品のカスケードポート (ポート16) の場合は、接続先のカスケード切替スイッチを「X PC」(MDI-X) に設定します。

8 設定

通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

接続先ポート	CentreCOM FS716TX V2				オート
	10M HALF	10M FULL	100M HALF	100M FULL	
10M	HALF	○	—	—	—
	FULL	—	○	—	—
100M	HALF	—	—	○	—
	FULL	—	—	—	○
オート	○	—	○	—	○

表 2 接続先の機器との組み合わせ

● 通信モードの設定手順

接続先の機器がオートネゴシエーションをサポートしていない場合、本製品の通信モードが「AUTO」に設定されていると、「10M FULL」および「100M FULL」での接続ができなくなります。

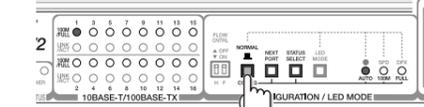
この場合は、通信モード設定スイッチ (ポート切替ボタン/ステータス切替ボタン) を使用して、本製品の通信モードをポートごとに手動で設定します。

ここでは例として、ポート3を出荷時設定から「10M FULL」に設定する方法を説明します。

1. 通信モード設定スイッチを「CONFIG」(スイッチが押し込まれた状態) に設定します。

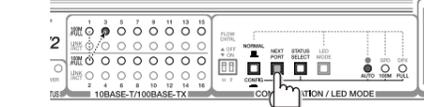
ポート1が選択され、通信モードの設定はAUTOとなっています。

AUTO/100M/FULL LEDの「AUTO」のみが点灯し、100M/FULL LEDの「1」が点滅している状態です。



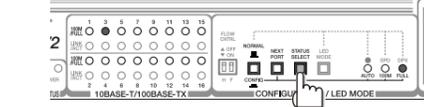
2. ポート切替ボタンを使用して、ポートを選択します。ポート切替ボタンを2回押して、ポート3のところにまで移動してください。

100M/FULL LEDの「3」が点滅している状態です。

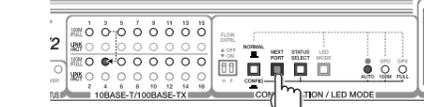


3. ステータス切替ボタンを使用して、通信モードのステータスを選択します。

ステータス切替ボタンを3回押して、10M FULLに切り替えます。AUTO/100M/FULL LEDの「FULL」のみが点灯している状態です。



4. ポート切替ボタンを使用して、ポート4へ移動します。ポート4へ移動することによって、ポート3のステータス設定が有効となります。



5. 通信モード設定スイッチを「NORMAL」(スイッチが飛び出している状態)に戻します。

以上で「ポート3」を「10M FULL」に設定するための手順が終了しました。